

# 学級数 地域実情に応じて 募集定員 県全体で見直し



県立高の学級数や募集定員などについて議論した「県立高  
募集定員あり方検討会」  
26日、熊本市中央区

## 「県立高あり方検討会」が会合

熊本県立高の将来像を議論する「県立高等学校あり方検討会」（会長・松下琢宗 城大教授、18人）は26日、第2回会合を県防災センターで開いた。各学校の学級数

は地域の実情に応じて決定し、募集定員は県全体で見直しを検討すると申し合わせた。

事務局の県教育委員会が県立高の現状について、2024年度は県全体の25学級（1学級40人）のうち、4割を超える60

学級が定員割れしていると説明した。さらに10年後の34年度は、中学の卒業生数が約2900人減少するため、定員割れは110学級に増えるとの試算を示した。

県教委は07年に策定した県立高再編整備基本計画で、1学年の適正な学級数を「4〜8学級程度」と明示している。検討会はこの見直し、地域の実情やニーズの多様化を考慮し、一律に適正な学級数を定めな

いことにした。

募集定員は、生徒が集まる熊本市内の学校を含め県内全体で見直し、1学級の人数が40人未満の少人数学級の導入も検討する。

委員からは「保護者や生徒、教職員らの意見を大事にしてほしい」「各地域の拠点校の役割を見つめ直す必要がある」などの意見が出た。

検討会は10月上旬から、各地域の学校やPTAなどを対象に意見交換会を開く予定。  
(後藤幸樹)